

狙え、一発大逆転!

「婚活」が流行っていますね。考案したのは社会学者で、就職活動を「就活」と呼ぶところを真似て、結婚活動を「婚活」と呼んだそうです。活動内容としては、出会いの場への参加や自分みがきなどがあるようです。少子化、晩婚化、結婚したいと思わない人が増えている中で、婚活という言葉が流行るのも面白いものだと思います。

そんな婚活の話を先日、姉としていたところ「公務員の女性は全然婚活をしようとしなさい」と言われました。姉曰く「民間企業に勤める独身女性は、この不景気の影響もあり、本気で活動をするが、公務員は民間企業と比べ職への不安が少ないせいか出会いがないなど口ばかりで全然活動をしなさい」とのこと。人にもよるのではないのだろうかと言いましたが、公務員はみんなそうだと言われました。

一の「公務員は～」という言葉、我が家ではよく聞く言葉です。民間企業に勤める母と姉が、公務員の父や私に言う常套句。しかし、これは我が家だけでなく、世間でも耳にする言葉で、公務員はこうだという固まったイメージがあるように思います。

友人に聞いた公務員に対するイメージも、終身雇用、定時退社、堅い、無愛想、上から目線、融通が利かない、たらいまわし等々、マイナスイメージばかりです。

実際に役所に来られるお客様は、どう思っているのでしょうか。どこかお店に買い物に行くように自分で行きたいと思っているわけではありませんし、さらに、働いている方にとっては平日に仕事を休んで、時間を作る必要があります。

そういった、すでにマイナスイメージを持って来庁された方々に、そのマイナスイメージを払拭し、よいイメージを持って帰っていただくというのは、

決してたやすいことではないと思います。

しかし、友人に公務員のイメージを聞いたときに「私が行った役所は、思ったより感じよかったよ!」こんなことを言った人がいました。元々やさしいと思っていた人がちょっと怒るとあの人は怖い人だったのだと思い、元々怖いと思っていた人がちょっとやさしくすると本当は優しい人だったのねと思う。これと同じことが、現在マイナスのイメージを持たれている役所にあてはまるのではないのでしょうか。

そう考えると、マイナスの位置に立っている今だからこそそのイメージアップのチャンスがそこに潜んでいるのではないのでしょうか。例えば、一昔前のドラマやマンガのように、ワルだと思っていたアイツが雨の中子猫を拾っているのを見つけてときめいてしまうような、そんな一発逆転のイメージチェンジチャンスが役所の窓口にもあるのではないのでしょうか。マイナスイメージを持っているお客様のときにこそイメージアップのチャンスなのだと思います。



チャンスの活かし方は様々ですが、役所は無愛想だ、不親切だと思っている方になら、説明の最後に「何かわからないことはありますか」と笑顔で一言添えるだけでも、「思っていたイメージと違うぞ」と思っていただけかもしれません。こんなちょっとした気配りで一発逆転が狙えるかもしれないのなら、狙っていかない手はないでしょう。職員1人1人が狙っていけば、三浦市自体の大逆転も夢でないと思うのです。どうせ「マイナスイメージだし」と思っている暇があるのなら、狙いましょう、一発大逆転!

(財政課 小林 布美子)

「ぼっこすこせえる」とは・・・神奈川県三浦市には三崎弁と呼ばれる方言があります。「ぼっこす」は「ぶち壊す」の意味、「こせえる」は「こしらえる」という意味です。つまり、「ぼっこすこせえる」は「ぶち壊し、こしらえる」=スクラップ&ビルドという意味になります。

暴論オピニオン (27)

三浦市政経営課では、行政経営全般について日頃から様々な無責任放談をしています。このコーナーではその放談の中で飛び出した暴論をご紹介します。両手を挙げて賛成できないまでも発想のヒントくらいにはなるでしょう。

議論の必要性

最近、議論を戦わせたことがあるだろうか。もちろん職務上の話である。

筆者は、あると言えばあるといったところ。しかし基本的には、担当職務の関係からか議論を戦わせる頻度は比較的高いと認識している。逆に言えば、三浦市役所全体を見たときには職員の間で議論を戦わせる頻度は低いものであると、経験上からも認識しているところである。

今回、暴論オピニオンで「議論」を対象とした意見を書くことを考えた理由は他にもない。今よりも議論を戦わせる頻度を高めるべきだと考えているからである。

ではなぜ、議論を戦わせる頻度を高める必要があるのだろうか。それを説明するためには、どうして議論を戦わせるのかということから説明する必要がある。

そもそも議論とは、どのようなときに戦わせるのだろうか。これは、極めてシンプルな問題であり、次のように言えるのではないだろうか。すなわち、意見が対立するときである。

そして意見が対立したとき、それを収束させるには、①議論を戦わせて答えをどちらかに絞る、②お互いに歩み寄ることにより折衷案を導き出す、③一方が自らの意見を取り下げる、などの方法が考えられよう。

このように意見が対立したときには①の方法により解決を図るべきと考えるのが、筆者の立場である。

しかし、③の方法は論外と考えるが①よりもむしろ②の方法のほうが採用されるべきではないか。というのが多数説であろう。なによりそのほうが、平和裏に問題の解決

を図ることが出来るのであるから。筆者にももちろん、その認識はある。その上で、敢えて議論を戦わせて答えを絞る必要があると言いたいのである。なぜなら、自らの意見と対立する意見があった時には、議論を戦わせるという前提そのものが重要だと考えるからである。より具体的に言えば、議論を戦わせることなく日常の業務が粛々と進んでいるとすれば、その文化そのものが問題ではないかと考えるのである。

例えば、対立した意見があるときに自らの意見にさしたるこだわりがないか、または自信がないときには、議論を戦わせないのが通常ではないか。また、ある意見について議論を戦わせるためには、その意見を取り巻く状況(環境)についての十分な知識と、意見を導きだした論理構造を明確にしておく必要がある。このどちらが欠けても、議論に勝利することはもちろんのこと戦わせることすら不可能なのは、お分かりいただけるだろう。

したがって議論を戦わせるためには、そもそも自らの意見にこだわりや自信を持ち、そしてその裏づけとして、十分な知識と明確な論理構造を有している必要があることとなる。

だからこそ、議論を戦わせる機会を増やすべきだと考えるのが筆者の立場なのである。意見を持つ際は熟考を重ね、決して馴れ合いで終わらせることなく真剣に議論する文化こそが、より良い政策の形成や業務遂行に欠かせないと信じているからである。

自信をもって導きだした意見をもって、大いに議論を戦わせようではないか。議論することを拒まず、むしろ議論を戦わせることこそあるべき姿として受け入れ、積極的に議論していただきたい。もちろん議論に勝利することが目的ではない。市民の皆さんにとって、より良い行政サービスを提供させていただくために、である。

次号(第37号)は8月20日発行です。



3S市長の経営視点

三浦市長の吉田ひでおです。『さあ～三浦の夏の幕開けです！』これから本格的な夏を迎えるにあたり、三浦海岸海水浴場の「海開き」が7月1日に行われ、安全に海水浴等を楽しんでいただけるよう祈願をいたしました。

毎年、大勢の観光客の皆様を訪れていただけるのも、安全対策・防犯対策にご協力いただいているライフセーバーの皆様や警察を始めとする地域の皆様のおかげであると大変感謝しております。

その三浦海岸海水浴場で、7月20日(月・祝)から8月30日(日)までの42日間に渡り、「ロックの学園 サマースクール」を開校します。(詳しい情報は、「ロックの学園」公式ホームページ: <http://www.rocknogakuen.jp/>をご覧ください。)

「ロックの学園」は過去2回、旧県立三崎高校跡地で開催し、世代を超え、地域を越えて、大盛況を呼んでいる熱いイベントです。今年の三浦の夏はいつもに増して「あつく」なることでしょう！

この熱気あふれるパワーと地域の皆様の支えを融合させて、地域活性化を推進し、皆様に選ばれるまちになるよう頑張りたいと思います。